miyagi prefecture forest instructors association

mifi news 89

宮城県森林インストラクター協会

令和６年３月発行

海岸林整備

巻頭言

会長　１４期　髙橋　孝紀

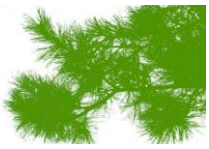
新しい年を迎えました。今年は正月早々能登半島地震がありました。被災された皆様には心よりお見舞いを申し上げます。令和６年の干支は「甲（きのえ）・辰（たつ）　」と言われております。甲という漢字は固い鱗状のつぼみ鱗芽を表しており、冬から春にかけてつぼみを固くしている状態を意味し、物事の始まりを示しております。一方の辰の字は草木が震えるように成長を始める姿を表しているそうです。つまり、耐えながらも希望を抱き、これから成長の時機が訪れてくるという意味合いであり、正に今年を象徴している干支でもあります。さて、十二支の中でも龍は架空の動物であり、中国の易経という書物には、龍はその成長過程で様々な呼び方を持っているようです。その中で「見龍田にあり　大人（たいじん）を見るに宜（よろ）し、飛龍　天にあり　大人（たいじん）を見るに宜（よろ）し」という言葉があります。見龍は修行をしている龍、飛龍は天に上った龍。それぞれに大人を見るに宜しという言葉がついております。修行を始めた龍は当然ながら、目標とする人（大人）の姿を追いかけ自分を磨きなさいという教えですが、天に昇るほどの龍もまた、大人を求めよというのは何故でしょうか。これは、大成した人であっても、決して現状に満足することなく、また次なる目標とする人を求めていき、決して慢心しないように、慢心すればたちまち地に落ちる龍（亢龍悔いあり）になってしまうという教えのようです。同じ易経の中には「未済（びせい）は亨る（とおる）」という言葉もあります。未済とは未完成を意味し、自分の未熟さに気付き自覚することにより成長の道が開けるという言葉であります。辰年を機に、私たちもまた不足点を知り、知識、技術、徳性の修練を怠ることなく、次なる目標、次なる成長を心に宿すことが大切なのかもしれません。

P.１　巻頭言
P.２　きかくがいろん
P.３　山開き式・枯損木処理作業
P.４―５　研修報告
P.６－７　海岸林本数調整伐
P.８　施設だより
P.９　リレー式／安全
P.１０―１１　投稿コラム
P.１２　七ヶ浜特集「七ヶ浜の地層」

マツバハリタケ

Gekiron! きかくがいろんBouron!

～　今回のテーマはひとつだけ　海岸防災林～



１期　木村　健太郎

【海岸防災林　本数調整伐と枝打ち作業】

楽しいですね。海岸防災林の本数調整伐と枝打ち作業。もっと大変で疲れるものだと思っていましたが、除草や枯損木処理などと違って、誰でもみんなでワイワイ楽しめて、成果がはっきり見えるのも良いです。

女性の参加も多く、作業も単純明快なので、みんな生き生きと動いている感じです。

当協会はもっとやりたくて次の場所を探している状況ですが、他のエリアを見ると、びっしり鬱蒼としてしまっているのに放置されている場所が多いのが現実です。無理やり中に入ってみると、真っ暗で下枝が枯れ始まっていて、みんな苦しそうです。可哀想なので思わず鋸に手が伸びますが、勝手に切るわけにもいかないのですね。辛いです。

逆に、スギやヒノキみたいに上部まで枝打ちされて先っぽしか葉っぱが無くなっているクロマツも見られます。明らかにスギと勘違いしている業者がやった感じ。切る場所も幹ギリギリで、将来的に「無垢の用材」をとるつもりなのでしょうか。

【「手入れ」という考え方】

宮城県の方針では、本数調整伐は南北に（海岸線と平行に）２残１伐の列状間伐。枝打ちする場合は幹から離して最低限、その後経過観察となっています。

本数調整伐を早い段階で行うことができれば、下枝まで陽があたるようになるので、枝打ちはそれほど必要としないはずです。そもそも、海岸防災林の目的は潮風や飛砂を防ぐことなので、根元が太く枝が張ってがっちりしているクロマツが理想的です。

下手に枝を打つと、下記３つのような弊害が起こる危険性があります。

①幹を傷つけてしまい、そこから病気が入って弱くなり、将来倒れやすくなる。

②根元まで栄養が届きにくくなり、形が円柱状（スギなら理想）になって頭が重くなり、風に弱くなる。

③そもそも下枝がないと、防風防砂効果が落ちる。

あの植栽間隔ですから、間伐をせずに枝打ちのみやっていたら、ヒョロヒョロ線香状態になってしまうのはイメージできると思います。私は、「三保の松原」のクロマツみたいな、がっちりどっしりの格好いいクロマツ林を育てたいです。

理想は、できるだけ枝打ちせずに、のびのびと自由に育つ環境を作ってあげることだと思います。

この意味で、いつものびのび自由な我々宮城県森林インストラクターは最強です。木が大好きで、海岸防災林に愛着があるので、１本１本の木と対話しながら楽しく作業することができます。

私は常々子どもたちに、どんなものでも「手入れ」が大切なのだということを教えたいと思っています。クルマでも作業道具でもお肌でも、「手入れ」をしなければ長持ちしません。そして、「手入れ」に最も大切なのは「愛情」と「相手をよく知ること」です。ぜひ、クロマツと“会話”をしてみてください。

〇あなた　　「クロマツ君　何をして欲しい？」
〇クロマツ君「下の枯れ枝を切って、ついでに枯れ葉も落として。ついでにクズが絡んで鬱陶しいし、右の雑草も邪魔。できれば積もった落ち葉も暑苦しいからどけて」
〇あなた　　「要求が多いね。でも任せて」
〇クロマツ君「来てくれてありがとう」
〇あなた　　「また来年の冬に来るからね」
〇クロマツ君「１年後か～い！」

野鳥やカエルの会話が分かるように、苗木の声も聞くことができるようになったら超一流です。最低限、「見捨てていないよ」ということを伝えないと、苗木たちも不安で不安で仕方ないでしょう。

とにかく、見捨てられた感じのクロマツが目立ちすぎるので、できるだけ助けたいです。「植えただけでＳＤＧｓ！」の勘違い企業、「管理方針を知らないので何もできない」という行政の担当者、一度くらいクロマツたちの声を聞きに来たらどうなのでしょうか。

それともうひとつ環境のことですが、アミタケ、シモコシ、テングタケなど、クロマツ林に遅めに入ってくるキノコ達が復活したら「クロマツ林」として成功したと自信を持てる気がします。来夏から、見つけたらぜひ情報を寄せてください。ハツタケ、チチアワタケ、ヌメリイグチは、すでに広範囲で復活しています。

マツバハリタケも復活が待ち遠しいですね。見つけたら涙を流して・・・でも焼いて食べます。

「三保の松原」のクロマツ林

山開き式　～活動の安全を祈って～

２期　進藤　恵美

１月２０日（土）活動の安全を祈願し、青少年の森で山開きの儀式を執り行いました。年が明け山仕事を開始したくてうずうずしている会員が大勢参加、事務室裏手の斜面にしつらえた神殿に集合。神主となった会長が祝詞を上げてお祓いをし、会員一人一人が玉串を奉納しました。式典後には暖かい甘酒とお菓子が振る舞われました。昨年は既に咲いていた県民の森一番に開花するというマンサクは、暖冬で雪も降らなかったというのにまだつぼみのままでした。

式の終了後は早速作業開始。３班編成で「ESD 学びの森」で、木道用の３ｍ材を取ってきて加工する班、「おねーの森」で遊歩道の刈払いとクラフト材料を収穫する班、「とうはつの森」で養成講座のネタ探しと展示材料を採ってくる班と、３チームに分かれて年始めの作業をしました。お正月明けで体が重いこと重いこと。斜面を登ると体がなまっていることがよくわかりました。

さあ、今年も張り切っていきましょう。

枯損木処理作業

20 期　鈴木　茂

ブルルン、ブルルン、ヴィン・ヴィン・ヴイーーーン・コ・コ・コ（エンジン始動）、ヴゥウーーーーゥン・ヴゥウーーーーゥン（受け口切り）、ヴゥウーーーーゥン・ヴゥウーーーーゥン（追い口切り）、カァーン・カァーン・カァーン（くさびを撃つ）
先端がゆらっと動き、スローモーションで倒れだし、スーーゾ、バリバリ、ドスーン、バタン。（チェンソーの音の表現難しい）直径 50 ㎝長さ 20m程のアカマツがよこ倒しになった。

見事狙った方向に倒れ、周囲から賛同の掛け声と拍手！！！その後全員で枝落とし、玉切、片付けまで 30 分程で１本目完了。

２本目までの出だしは良かったが、次からは周囲の立木が邪魔し、なかなか狙う場所が無く大苦戦、木にロープを掛けチルホールで引きながら倒したり、近くの木に寄り掛けて倒しロープでひっぱったりしながら切ったり、思い通りに行かず「掛り木」になってしまったりで、初日はアカマツ５本でタイムオーバー。

２日目は、60 ㎝超えの急斜面にあるアカマツ１本と 30～50 ㎝級のアカマツ３本を処理。
※マツらしい枝振りが伐採の際には仇となり、周囲の木に絡みつきやすく掛り木になりやすい。

１月 27、28 日の２日間で実施した枯損木処理作業状況でした。

作業人員は初日 21 人で３班編成、２日目 27 人で４班編成、私は浅野さんをチーフとする県民の森作業班２名とボランティア５名の７人チームでの作業でした。主に「アカマツの道」の歩道脇のアカマツの立ち枯れ伐採です。浅野チーフの慎重な作業前打合せ・安全指示の下、ヒヤリハットも無く和気あいあいとした雰囲気で目標達成し、アッと言う間の２日間でした。お疲れさまでした。

切った材木を集める片付け作業

冬こそ研修 ①

１１・１２月　研修報告

１９期　横山　美喜子

11 月と 12 月に二つの研修に参加しました。どちらも会員が講師となり、養成研修を受講中の 24 期生をはじめ、もっと自分のスキルを高めたいと思うメンバーが集まって、じっくりゆっくり行う研修です。講師の方々のすごさを改めて感じ、もっと知りたい、もっとやってみたいと思いました。講師の皆さん、研修会を設定していただいた事務局の皆さん、本当にありがとうございました。

11 月２６日　晩秋の県民の森を歩こう研修会

快晴の下、中央記念館前に集合したのは12名。そのうち3名が養成研修を受講中の24期生でした。講師は7期生の工藤さん、13期生の駒野さん、研修会の運営責任者は事務局の鈴木さんです。早速6名ずつ二手に分かれて研修のスタートです。私は工藤さんのチームに入りました。最初に配布されたのは、「日本のカエデ一覧」という図鑑の抜粋ページ。そこには、36種類のカエデの葉が描かれていました。そのうち、この周辺で見られるのは16種類とのこと。果たしていくつ見つかるか、ワクワクしながら出発しました。

最初に見つけたのは中央記念館の敷地内のイロハモミジ。葉の縁の鋸歯と５つの裂片が特徴です。続いてオオモミジ（やや大きく赤が濃く裂片は７）、ハウチワカエデとコハウチワカエデ（いずれも裂片は９）と次々に見つかっていきます。同じ種類の木を見ていくにつれ、少しずつ、カエデの名前が当てられるようになってきました。紅葉はせず、切れ込みもないチドリノキ、ヒトツバカエデなど、判別の難しい木も教えていただき、すごく得した気分。さらに、3枚の小葉からなる複葉で、深い赤の色も美しい、県民の森に1本しかないというメグスリノキも教えていただきました。最終的に16種類のうち見つかったのは11種。採取した葉は、今でも押し葉にして保存しています。

この日は、いつもは開放しない場所も紅葉を見るために開放され、県民の森のファンの方々もたくさん来ていました。

今年一番の美しい紅葉に圧倒されたラッキーな研修でした。

12 月 16 日　チェーンソーと伐採研修会

参加者は１５名。初級者組８名、中級者組７名に分かれて研修が始まりました。初級者組の講師は14期の佐藤さん、中級者組の講師は事務局の木村さん、研修会の運営責任者は事務局の鈴木さんです。私は勿論、初級者組に参加。24期生も4名参加しています。また、初級者組の8名中5名が女性でした。

早速古民家裏に移動。伐採されていた丸太を切ることになりました。前日の雨で丸太がある場所には水が溜まっており、滑って尻もちをついてしまう方もいて、最初から波乱含み。でも気を取り直して、混合燃料とオイルの給油からスタートです。養成研修会以来、チェーンソーに触っていなかった私と、先日養成研修で習ったばかりの24期生。いろいろ危なっかしく、講師の佐藤さんも緊張気味です。でも、エンジンが一発でかかったりすると拍手！まっすぐ切れれば拍手！縦だけではなく、横切りにも挑戦して拍手！なんとなく自信がついてきたところで、中級者組に合流です。中級者の方々は、牽引具も使って、伐採作業に取り組んでいました。

初級者組に与えられた任務は、伐採した木の枝払い。落ち葉の中にまでチェーンソーを入れて、下から枝を払うやり方も教えていただき、なるほど！と感心しました。

初級者組の終了後の感想は、「こんなにすっきりしたのは久しぶり！」「楽しかった！」「充実した！」でした。

冬こそ研修　②

会員向け研修会の活動紹介

事務局　鈴木　駿

活動が比較的少ない１月～２月は月に３～４回程度、様々な研修会を企画・実施しています。各々の技能向上の為だけではなく、普段の活動に参加していない会員にも気軽に参加してもらいたいと考えております。今回は参加したことがない会員へどのような活動をしているか知ってもらう為、事務局の視点で直近の研修会の様子を紹介していきたいと思います。

１月２８日：冬の植物観察会/ＮＥＷゲーム研修会

この日は午前に植物観察会、午後にゲーム研修会を行いました。どちらも盛り上がった研修会となりましたが、植物観察会の参加者数が１５人だったのに対し、ＮＥＷゲーム研修会の参加者は７人と少なかったことが、とても残念でした。

植物観察会自体は、講師の駒野さんが見本用に冬芽をたくさん準備してくれたので、写真と実物を見比べながらじっくり観察でき、初心者には非常にわかりやすく有意義な時間になりました。しかし、今回の植物観察会は活動案内に初心者向けと記載していたのですが、植物に詳しい人が何人か参加していたので、そういう方々も自分の得意分野の研修会だけではなく、ＮＥＷゲーム研修会といった新アクティビティを取り入れた研修会にも参加してもらえると嬉しいです（植物観察会の参加者何人かに声をかけましたが、苦手だからという理由で断られた…）。

ＮＥＷゲーム研修会の方は、ソフトモルック、ラダーボール、ゴミ箱トス、マジックブロックゲームの４種のゲームを行いました。最初に講師の木村さんから勝者には景品が出るという説明があった為、参加者全員が目の色を変え全力でゲームに挑んでいる様子でした。チーム戦では２４期生の菅原さんが大活躍をし、他のチームは歯が立たない程でした。個人戦は私自身が咆哮するほどヒートアップし、終始盛り上がった楽しい研修会となりました。どれも簡単に取り組めるゲームなので、興味がない方・苦手意識がある方でも一度は参加してもらえると見方が変わってくるのではないかと思います。

2月１２日：２０２４年定番ネイチャークラフト研修会/ロープワーク研修会　上級編

ネイチャークラフト研修会では、２０２４年の定番になるかもしれない？クラフト５種の作り方を教わりました。どの工作も参加者が熱心に作製していたので多少時間が押してしまいましたが、参加者全員がしっかりと作品を作り上げていて、とても充実した時間となりました。

同日の午後は、ロープワーク上級編の研修会が行われ、冒頭に講師の木村さんから巻き結び、もやい結びは素人がやりがちな結び方、南京結びは「見せたがり」だと説明があり、参加者は驚きを隠せない様子でした。

今回はロープワークの上級編という事で、二重巻き結びや、ガルダーヒッチ、マリンスパイクヒッチなど様々な結び方を１０種類以上学びました。参加者は聞いたこともないような名前の結び方に困惑していましたが、上級編に参加するだけあってほとんどの参加者がすぐに結べる様になっていました。しかし、今回結べたからそれで安心するのではなく常に練習して体に染み込ませる事を意識して取り組んでもらいたいと思います。

マジックブロックゲーム対戦中

最後に会員皆様へお願いです。研修会に参加する際は、飛び込み参加ではなく事務局へ連絡くださいますようお願いいたします。また、必要な持ち物も活動案内に書かれていますので、持参するようお願いいたします。

挑戦してみましょう！！　　マリンスパイクヒッチ（てこむすび）

ロープを木や杭、フックなどに結びつける方法。船舶の係留やテントの張り網の固定等に使われる

① ２残１伐でマツを切る

② 集積場所まで運ぶ

いよいよ開始！海岸防災林の本数調整伐　　２２期　横坂　圭一

東日本大震災以降、諸先輩方のご努力によって宮城県各地で海岸防災林の植樹と保育がなされ、順調に育った所では本数調整伐が始まりました。昨年１１月末から２月までに仙台市荒浜北官林、岩沼市寺島川向地区、山元町山寺字須賀海岸において、本数調整伐作業が行われています。今年はその他多くの活動場所でも本格的に作業が行われる予定です。わずか数年でも保育管理を放置した場所にはクズ・ドクウツギ・テリハノイバラ・オギ・ツルマメなどが我が物顔で侵入してきます。そこは入るのも困難な“ミニジャングル”。進入路を拓くなどの事前準備作業は難儀ですが、刈払機や手道具を使ってなんとか拓くと明るくすっきりしたマツ林に変わるので、とてもやりがいがあります。

本数調整伐作業は２残１伐が方針です。マツを切る人、切ったマツを集積場所まで運ぶ人、運ばれたマツを鉈で枝払いする人による手際のよい連携プレイは‘う～ん、さすが協会’と唸るしかありません。この作業も成果が目に見えて分かるので、大きな達成感を感じます。加えて私は晩酌が２倍美味しい！未経験者も含めて出来るだけ多くの会員に参加してほしいです。運搬、枝打ち、防風柵のつる除去等の手作業もたくさんあるので、作業全般に不慣れな人、体力に自信ない人でも参加可能です。最近は女性会員の参加が増えてきており、とても良い傾向です。頭数が揃えばどんな森でも協会の作業は無敵であり、協会全体の底力も高まります。

ところで何で本数調整伐を行うのでしょうか。釈迦に説法ですが、植樹したまま放置すると幹が細く樹高が高くなり、津波への耐性が弱い樹形になってしまいます。従って健全なクロマツ海岸防災林の成林の為には段階的に実施する間伐として、本数調整伐が必要になります。津波被災地で確認されたことですが、戦前までに植えられた古いマツ林では、間伐や落ち葉かきが行われていた為、根もよくはり、地下水位が深く直根が発達したマツが生き残ったそうです。

宮城県の海沿いの町で生まれ育った２２期の同期に海岸防災林での思い出を聞いてみました。離れの小屋までかき取った落ち葉を一輪車で運び、それを燃料や堆肥材料に使い、きれいに保たれた林床からはアミタケなど数種類のキノコが取れたそうです。そこは正に里山だったのです！数十年後に健全な成林になった暁には、地域の人々が集い大切にされる“海岸里山林”が復活することを心から願っています。

③ 枝払いして綺麗に集積

④ 作業終了

すくすく育て！海岸防災林

２期　進藤　恵美

２月３日（土）に（株）ジャパンクリーンさん、県職員有志からなる team ID さんとの共催で岩沼市寺島川向海岸防災林の本数調整伐活動を行いました。初めに髙橋会長から「海岸防災林の道筋がようやく見えてきた、元日を襲った能登大地震の復興の道筋も早く整うように祈りながら、安全に気をつけて作業をしましょう」との挨拶がありました。

２０１５年５月に子どもたちの未来のために「きぼうの森」として植樹を開始して９年、当時一緒に活動した子どもたちは高校生となったそうです。位置出しをして等間隔に植えたクロマツは数メートルに成長しました。２列残して１列伐るという２残１伐の方法で本数調整を行います。協会員の指導の下、伐る班は４グループに分かれてそれぞれ１列ずつ担当、伐って運んでを繰り返す重労働。４ｍを超えたクロマツはのこぎりで切るのも、倒したマツを引きずって集積場まで運ぶのも大変でした。作業が進むにつれ奥に入り、運ぶ距離が長くなり、「もう限界ですう・・・」と弱音を吐きたくなりました。集積場では次々と運ばれるマツに鉈をふるって枝を払い綺麗に山積みします。危険を伴う作業なので鉈は熟練者のみ。鉈を持つ右腕が大丈夫なのかと心配するも、スナップと鉈の重さを利用するので負荷はそれほどでもないのだと心強い返答。みんな大汗をかきました。作業には体温調整が出来る重ね着が必須です。

無理をしないで休み休みの作業でかまわないのだといいながらも、①昼でやめる②昼を食べて午後もやる③終わってから昼にする、の３択のうち選ばれたのは③！！！でした。

作業が終わって提供していただいたお弁当は宮城の名物づくし。牛タン、仙台牛、笹かま、シソ巻、油麩、銀鮭、長なす漬、はらこ飯、ずんだと県内各地の郷土料理が並ぶ楽しいお弁当でした。

植樹だけで撤退する企業が多い中で、ジャパンクリーンさんは、ずっと世話をしながら防災林の成長を支えていく決意を表明してくださいました。願わくば高校生となった子どもたちも連れてきてほしいものです。育樹の大切さを伝えなければと思います。

コラム：*海岸防災林には潮風に強く、貧栄養の土壌でも育つクロマツが主に植栽されています。植栽時のままでは津波への耐性が弱い樹形になるため、生育に合わせ段階的な間伐が必要です。（本数調整伐）林業技術総合センターが亘理町の海岸防災林を対象に本数調整伐を実施して伐採率に違いが見られるかを調査しました。伐採前の材積の２５％を伐採した区画、３３％を伐採した区画、伐採を行わなかった区画を作成し、本数調整伐から１年が経過した時期に３つの区画の生育状況を調べたところいずれも風倒などの気象害や枯死は見られず健全な生育が確認され、本数調整伐を行った２つの区画は幹の肥大成長が良い傾向が見られました。また、より多く伐採した場合でも健全な生育が確認されたことから、高い伐採率で回数を減らして効率的に保育管理を実施できると考えられます。（みやぎの林業だより２３１号より）*

令和元年台風１９号の被害からの復旧

県民の森管理事務所所長　　１４期　森山　稔也

広報委員の進藤さんから県民の森の改修工事について寄稿の依頼がありました。はて、何のことと思い、確認したところ、菅野沢溜池にそそぐ２本の沢の改修工事のことと聞いて、「そうか、沢の改修工事と思われていたのだ」と納得しました。この工事は令和元年１０月１３日の台風１９号による被害の災害復旧工事であることを先ずお伝えします。

台風１９号は全国的に大きな被害をもたらしました。当時の様子は内閣府の「台風１９号等の概要」という３４ページの資料にまとめてありました。この資料を見ると、目を覆いたくなるような絵が次から次へとこれでもかというくらい続き、当時のことがよみがえってきます。北陸新幹線車両が水没したのもこの台風の時でした。県内では阿武隈川の氾濫と鳴瀬川水系の吉田川の堤防が決壊し甚大な被害がありました。県民の森での大きな被害は、フィールドアスレチックのスタート地点右側の沢の崩落、青少年の森森の学び舎前の山の斜面の崩落、その斜面崩落に伴いヒノキの大木が森の学び舎に向かって倒れ、車１台を押しつぶし更に建物軒先とガラスを壊しました。他にも多くの場所で崩落や道路の亀裂が発生しました。

あれから４年後、２つの沢の浚渫と沢の改修が終わり、ようやくひと区切りがついたような気がします。園内にはまだ通行止めのままの遊歩道もあり、完全な復旧には至っていません。改めて当時の被害の大きさを思い出しました。今年は元日から大変大きな自然災害が発生しています。（どちらかというと人災という気がします。）「天災は忘れたる頃に来る」と物理学者・文学者の寺田寅彦は警鐘を鳴らしましたが、今では天災はいつでもどこでもやってくるという感じがします。去年は何もなくても今年はどうなるかわかりません。

想定外は想定内という心構えで、災害に備えていきたいと思う今日この頃です。

大木の下敷きとなった車輌

ことりはうすの春

ことりはうす所長　１７期　伊藤　正義

「ことりはうす」で７回目の春を迎えようとしております。今以上に充実した「ことりはうす」の管理・運営業務が出来ると信じております。平成６年４月に蔵王野鳥の森に併設して建てられた「ことりはうす」は、蔵王の自然や野鳥の生態などが学べる自然史博物館で早30 歳になろうとしており、節々に老朽化を感じさせるようになりました。

さて、皆様は一番に春を感じ取れるのは何なのでしょうか。私がすごく春を感じるのは草や樹木でもなく、「ことりはうす」の所長らしくミソサザイの高音で澄んださえずりです。敷地脇の沢・ワサビ沢湧水地付近で春を告げる一番鳥だと思います。日本では最小クラスの鳥ですが、さえずりは日本三鳴鳥の上を行くと思っており、個人的に三鳴鳥は「ミソサザイ・ウグイス・キビタキ」と思っております。会員の皆様はどの様に思っていますでしょうか？草木が好きな方はやはり草や木の芽吹き等で春を感じるのではないでしょうか。今年１月１６日の最高気温が－４．２度で、頭が痛くなるくらい寒いのですが、雪が降りません（１月１９日現在）。その様な極寒から微かな、かつ確実な春を感じさせるのがミソサザイの高音で澄んださえずりで、毎年３月２０日前後に確認されております。その時期には前庭のマンサクが咲いており、「ことりはうす」が春を迎え、正面階段脇のレンゲツツジが咲き乱れるころには本当に美しい「ことりはうす」を見ることが出来ます。

個人的ですが本年度で所長の任を降り後任に任せます。会員皆様のご協力でより良い管理運営が出来ますので、今後とも新所長をよろしくお願いします。

３０歳になることりはうす

安全のページ

熊との遭遇　４５年前の私のヒヤリハット体験

２０期　遠藤　陽一郎

熊にもそれぞれ個性があり、空腹時、発情期等状況の違いもあるため、ただの体験談と思っていただければ幸いです。

北アルプスの前山での工事中でのこと。入山口まで徒歩 90 分の山中の夕方に下山を開始、小尾根を回り込んだところ約 3 メートル先に“熊”！ 最初はカモシカかと思うほど動かずこちらを見ています。私も当然動けずにらみ合いに。当初は攻撃に備え、パンチが来るか、体当たりかと全身を見ていましたが、こう着状態が続く中、結局視線を目に集中する事にしました。が、状況は変わらず。策を考え、単純に、火・煙はいやだろうと煙草に火を着けても熊は動じません。此方もーかハかの気分になり煙を吹きかけると目玉が動き、「今だ」と一歩踏み出すと、熊は一目散に谷に向かって逃げてくれました。そこは連日日中、発破音と地上５ｍでの物輸ヘリのホバリングの騒音がこだまする所で、作業終了２時間後程の出来事でした。その時の教訓として、熊は人間をよく観察していて慣れた音は怖がらない事を知り、自らの耳をも阻害する鳴り物は連続して使わず、むしろ静かに動き、落ち葉や風の音それに混ざる異音に傾注し、自然に溶け込むようにつとめています。またある時、樹上で採餌中の熊はそっと立ち去ると何もしてこなかったが、１５ｍ先で採餌のためこれから栗の木に登ろうとしていた熊はすぐ此方を向いて立ち上がり戦闘態勢となりました。幸いこの時は同行の犬が追い払ってくれました。

熊の被害を防ぐには、集落の周りに草刈等で緩衝地帯を作る事、柿、栗等の摘果は経験上有効です。但し刈払機等のエンジン音は過信できません。熊との遭遇は、遠近、親子連れを含め 70 回を数えるほどになりますが、出来ればアニマルトラッキング(?)は、足跡、糞だけにしたいものです。尚、全ての遭遇は、一般登山道、遊歩道でなく、作業道、藪漕ぎ中、山林整備中、自宅の横、庭(柿)でのことです。

技術保持のためにボランティアで伐採作業

リレー式会員の広場

「　だめだっちゃ！温暖化　」

２２期　佐々木　徳志

「だめだっちゃ！温暖化」、このキャッチフレーズをまだ覚えている方はいますでしょうか？以前宮城県が温暖化に関する「キャッチフレーズ」を公募して決まったキャッチコピーだったと思います。当時「地球温暖化の問題」はまだ机上のイメージで、私も理屈として理解はしているものの、実感はありませんでした。しかし、今年の冬もなかなか雪に恵まれず、12 月 1 月は雨が多かったと記憶しています。私の人生経験において 12 月～2 月に雪が降らない事自体まことに受け入れがたいことです。

さて、温暖化による生物への影響はどうなっているのでしょうか？県内でも最近イノシシによる農作物の被害が急増しています。20 年くらい前であれば、宮城県内にイノシシが生息しているなどと報告しようものなら「本当かよう？」と相手にされない時代もありましたが、今は、北上しながら生息域を伸ばしているようです。同じく、外来種のガビチョウも一時、福島県内で増えているとの情報がありましたが、最近は一気に宮城県内でも急増しています。

以下、資料の引用になりますが「温暖化による生物分布シフトは、一部の生物種（特に移動能力の高い鳥類）では確実に進行しているとの資料があり」、逆に「移動能力の低い生物種が温暖化の将来的な進行に対応することが困難」、「飛翔性の無い生物が琉球諸島から本州へ、あるいは本州から北海道に、海峡を越えて分布域をシフトすることは困難」です。つまり絶滅を暗示しています。これは、ゆゆしき事態です。

話を戻しますが、今の暖冬を過ごしながら、裏腹に非常に心配なのが、今年の夏はどんだけ暑くなるのだろう？ということです。昨年、刈払いやイベント中に熱中症寸前の危機が何回かありました。今年も大変心配です。イベントの参加にあたって安全管理はもちろん、熱中症対策にも十分気を付けて活動していきたいと思います。

県民の森に出現！！

次回は 22 期 小松雅夫さんにバトンタッチします。

大冒険？？私の聖地サンティアゴ巡礼の旅

９期　小島 恵子

サンティアゴ巡礼路

私には20年来心に温めてきた夢がありました。それは「Camino Frances（フランス人の道）」を歩くことです。ピレネー山麓フランスの小さな町、サンジャン・ピエ・ド・ポーからスペイン・ガリシア州西の果て聖地サンティアゴ・デ・コンポステーラまで続くキリスト教巡礼の道 800 kmです。『星の巡礼』という本を読んだことが始まりでした。

モホン：
道の方向を示す道標

この年齢で初めての海外一人旅、それも初めてのヨーロッパ。英会話力が中学１年レベルの私にとって“冒険”というより“無謀”がぴったり。そして、出発10 日ほど前から緊張で熟睡出来ないくらいの、とても小心者なのです。

延々と続く麦畑と
相棒のリュック

そんなところに出発当日からトラブル発生！パリに着いてから乗るはずだった TGV（高速鉄道）が、鉄道ストのためキャンセルになったとメールが届きました。半ばパニックです。羽田に向かいながら、何とか次の手立てを考えましたが、この出来事で肝が据わったようです。

トルティージャには
なぜかフォークがさ
してある

4/19に出発し帰国は 6/20。２ヶ月間の旅が始まりました。巡礼初日は、この道で一番の難所といわれるピレネー越え。標高差 1200m、歩行距離 26 kmを歩かなければなりません。広大な峠を越え、宿泊する修道院のアルベルゲ（巡礼宿）が遠くに見えたときにはヤッターッと安堵しました。宿での夕食はオランダ、イギリス、ドイツ、フランス、韓国の巡礼者とテーブルが一緒になり、皆さん英語で楽しげに会話が弾んでいます。はじめは彼等の会話に入れるよう努力しましたがお手上げで、それからは私に話しかけないでオーラを放ち、一人黙々とガッツリ食べました。

ワインの泉：巡礼者
のために右蛇口から
ワイン、左蛇口から
水がでる

子育て中のコウノトリ

私のリュックは水・食料を入れると9kg。結構肩に来るのですが、数日すると体も慣れてくるものです。連日25km前後歩き、時に道を間違えて 38 km、あてにしていた宿が閉じていて40km歩く羽目になったことも。その時はもうクタクタを越えてヘロヘロです。でも、延々と続く麦畑、ブドウ畑の道を抜け、石積みの家が立ち並ぶ小さな集落、小さな町、時には世界遺産のカテドラルや教会の石畳の道を歩き、長い歴史の時間、多くの人々が祈り歩いたこの夢の道の上にいる自分が不思議で、また、歩くことができている事に感謝の毎日でした。

同宿の巡礼者と夕食

山頂の木の十字架

季節も日本と同じく春。道沿いには可憐な花々が咲き、小鳥たちのさえずりが更に歩きを楽しいものにしてくれました。それに、ワイン、生ハム、チーズが多彩ですこぶる安くて美味しいんですよ！

朝は6時前後に歩き始め、外はまだ真っ暗で星や月がきれいです。その頃は歩き始める人もまばらで、静かに自分の歩く世界に浸れるのですが、明るくなる頃には追い抜かれてしまいます。外国の人は足が長いのです。彼等の1歩は私の2歩ですから。そして、追いついたり追いこされたり、通り過ぎるときに「ブエン　カミーノ（良い巡礼を）！！」と笑顔で声を掛け合います。道を間違えそうになったときに、こっちだよと教えてくれるのは町の人たち。15人の日本人にも会いました。ご夫婦だったり、30代の若者、80歳の女性。そんなときは思いっきり日本語でおしゃべりするのです。

花の道が続く

腕に亀仙人のタト
ゥーの巡礼者

ガリシア州に入ると、まるで日本の里山を歩いているような景色が広がります。ブタナ、ヘラオオバコ、イネ科の植物などもよく目に入り、なーんだ、日本と同じ花が咲いてるじゃないか・・と。おっと、違う違う、もともとこちらの大陸の草花だったと気づき苦笑いです。予定より早くサンティアゴに到着したので、更に 100 km先のスペイン最西端のフィステーラまで足を伸ばし、この上なく充実した旅となりました。この健康的でハードな旅のおかげで、なんと5kg体重が落ちましたが…それもつかの間のこと。そろそろ次の旅が頭をよぎっています。

サンティアゴ・デ・コ
ンポステーラに到着！

ガウディの建築

会員投稿コーナー

我々は、日々結構な綱渡りをしている

２３期　佐藤　栄晃

ネットに気になる情報がありましたので紹介致します（以下、文体変更）。

その見出しは、「車に草刈り鎌を載せてたら“逮捕”70 歳男性の悲劇」。概要は、A が令和元年 10 月の昼前、駐車場で軽自動車の運転席に座っていたところ、警察官から職務質問を受けた。その際、A は「以前鎌とのこぎりを使って、それを積んだままにした」と述べたため、警察官の求めに応じ車のハッチバックを開けた。そこには他の荷物のほかに、刃体長約 20 ㎝のこぎり 1 本と同約 16 ㎝の鎌があった。警察官が刃物について質問したところ、A は 8 月頃いとこの家の庭の手入れ等で使用した、いつか使う予定だが、今日使う予定はない旨述べた。警察官は銃刀法 22 条（何人も、業務その他正当な理由による場合を除き、（中略）刃体長が 6 ㎝をこえる刃物を携帯してはならない。）違反に当たる旨伝え、各刃物の任意提出を求め、A はこれに応じ、警察署に移動して事情聴取を受けた。A はその後起訴され、旭川地裁の公判を経て令和 3 年 12 月に無罪となった、というものである。

判決理由の骨子は「銃刀法 22 条の『正当な理由』とは、刃物の携帯が職務上又は日常生活上の必要性から社会通念上相当と認められることをいい、その存否は刃物の用途や形状・性能、携帯者の職業や日常生活との関係、携帯日時・場所、態様及び周囲の状況等の客観的要素と、携帯の動機、目的、認識等の主観的要素を総合的に勘案して判断すべきだ。のこぎりと鎌は使い方によっては危険だが、日常生活で使用されるもので社会的有用性は大きく、屋外での使用が想定されるものだから自動車に積載されていて不自然とはいえない。各刃物は自動車の後部に置かれており、刃体はそれぞれ透明ケースと新聞紙で覆われていたから、携帯にあたるとしても、すぐに手に取って使える状況にはなく、危険性の小さい態様といえる。また周囲に人はおらず、自ら警察官に刃物の積載を申告したなどの言動から不当な使用目的や意図があったとは窺われない。約 2 か月前にいとこ方で草刈りや木の枝を切るのに使用し、今後同様の作業をするつもりだったと供述しており、これも信用できる。危険性の小さい態様で、本来の用法に沿った使用目的で各刃物を積載したと認められるから、『正当な理由』があったといえる。」である。

ネットの見出しと異なり、A は逮捕されていないようだが、2 年以上に渡って被疑者・被告人という身分を強いられている。もし刃物に鉈が加わり、又は裸で後部座席に積んでいたら、正当な理由による携帯とは言い難いとの判断になるかも知れない（実際、そういう判例もある）。

この判決を見てから、作業用具を車載している状況で職質を受けた場面に備え、インストラクターの認定書写しを座席下に入れ、さらに刃物には上掛けをし、帰宅後は物置に仕舞っている。それでもなお、任意同行を求められたならば、不本意でも従うのが無難と考えている。事情はともあれ、刃物の携帯という事実はあり、警察官が同行を求めた時点で立件に動いたと推測できる上、過度に抵抗すると公務執行妨害で現行犯逮捕もあり得るからである。

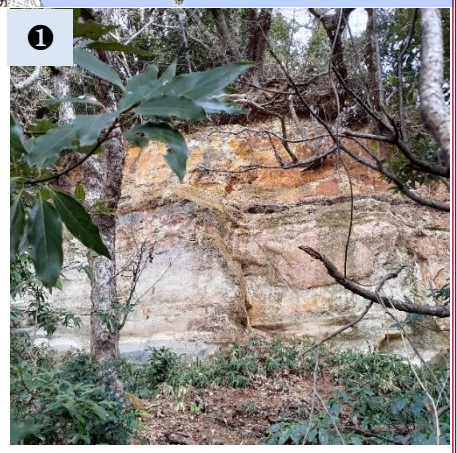
話は変わるが、昨春、県内某所においてナマコとマダコを 1 匹ずつ手掴みで採捕した人が漁業調整規則違反で逮捕され、数年前にはテトラポットに付いていたカサガイをドライバーで剥がしていた人が逮捕されたとの新聞記事を見た。また、私有林内で山菜やキノコ採りをすれば、森林窃盗罪に問われかねない。軽い気持ちで、つまり違法行為をしているとの認識が無かった場合でも犯罪は成立し得る。社会には前科者（罰金でも、執行猶予でも前科はつく）となりうる落とし穴が結構存在するのである。

令和６年度通常総会のお知らせ

◎令和６年６月８日（土）記念講演１３：００～　総会１４：００～　仙台市市民活動サポートセンター

【編集後記】会員の皆さんの長年の希望が叶って全ページをカラーで発行することができました。世の中の技術の進歩はめまぐるしく、インターネットの普及に伴う発行体制を考えると共に、紙資源削減問題にも対応していかねばなりません。皆さんは会報に何を求めますか？今年度は「読んで楽しい、読んで役に立つ、読んで人の環が広がる」をスローガンに取り組んできました。これからも多くの会員の方に会報に登場していただき、お互いを知るコミュニケーションの一助になればと考えています。表紙を飾る写真やイラスト、旅の紀行文やエッセーを常時募集しております。（２期：進藤）

七ケ浜の地質



露頭の近くの薬師堂の隣には慈覚大師お手植えの伝承があるカヤの巨木がある。

飛ケ埼を始め、御殿埼も黒崎もまるで自然の作った防波堤のようです。この地形はどうしてできたのでしょう。

左上の写真では、外国人居留地のある高山の崖に７～８世紀頃の横穴墓群が見られる。右上の写真中央には正断層がはっきり見られ、左下には海食洞が見られる。

まずは湊浜にある薬師堂の近くの地層から見ていきましょう。ここには表浜方面に向かう道路の左側にいくつかの露頭が見られます。❶の写真を見てください。下部には細レキ岩が断層で灰色シルト岩と接し、その上に凝灰岩質砂岩、さらに亜炭層、最上部には黄色の凝灰岩が見られます。不整合が見られ、一度堆積した地層が隆起して陸となり、侵食され、ふたたび沈降し、その上に新しい地層が堆積したことを示しています。続いて❷の飛ケ埼、御殿埼、黒崎と見ていくと、いずれも落差が１０㎝から３ｍぐらいの多くの断層が見られます。御殿埼では、砂岩と石英安山岩質角レキ岩が断層で接している露頭があり、砂岩が 10m 以上ずり落ちている様子も見られます。❸外国人居留地のある高山近くの表浜を見てみましょう。断層はここでもはっきり見られます。さらに、火山角レキ岩や溶岩が地層を形成していることが分かり、御殿埼などに見られる地層よりごつごつした感じから、この溶岩を噴出した火山の噴火口は、ここから南東側の現在の海底にあったと考えられます。

さてそれでは、七ヶ浜の成り立ちを考えてみましょう。新生代第３紀中新世、最も古い灰色シルト岩の地層ができた頃、内湾の浅い海だった七ヶ浜は、その後、現在の海底での火山活動があり、溶岩や火山角レキ岩等が堆積した。火山活動の後も浅い海に堆積があったが、やがて隆起し陸地となった。上昇する際、正断層がたくさんでき、岬となっているところは持ち上がり、その間の地域は落ち込んだ。地層の一部は侵食され、不整合面ができた。陸化した七ヶ浜地域は、再び沈降を始め、低湿地帯となり、植物の破片が堆積し、やがて亜炭となった。さらに沈降は続き再び海となった。ここに見られる凝灰岩から、近くで活発な火山活動があったと考えられる。その後また陸化し、硬い火山角レキ岩などからなる部分は浸食に耐え、尾根となり、シルト岩の多い部分は侵食されて谷となった。やがて第４紀末に海水面が上昇し、谷には海水が入って入江となり、尾根は岬となった。

多くの露頭から、特徴のある地質の様子を読み取り、その歴史を辿るのも、七ヶ浜の楽しみの一つですね。

（１９期　横山美喜子）

＊参考文献「新編仙台の地学」「宮城の地学ガイド」

発行　特定非営利活動法人　宮城県森林インストラクター協会
〒981-0121　宮城県宮城郡利府町神谷沢字菅野沢４１　青少年の森
TEL&FAX：022-255-8223
メール：mifi@bz04.plala.or.jp　HP：http://mifi.main.jp